

ちいきの大学

Contents

- 県内教育委員会地域教育連携推進協議会
- 地域連携フォーラム
- 外国人児童生徒支援にかかわる研修会
- 土曜親子日本語教室
- 連携公開講座開設に係る打合せ
- 地域連携会議
- 4者協定連絡会



2015
春
11

愛知教育大学は教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献します。



教育未来館

ちいきの大学をめざして

地域連携センター長 白井 正康

昨年の12月に、本学の「学校教育支援データベース」の冊子を3年ぶりに半年ほどかけて更新し、県内の幼稚園・小中学校・高等学校及び教育委員会等に配布しました。この冊子には、本学の教員の専門分野や過去の研修会内容等が凝縮されています。学校教育だけでなく一般市民向けの幅広い分野でも活用していただけるものと確信しております。

さて、大学の使命として、研究・教育とともに社会貢献が求められています。教員だけでなく、学生もボランティア活動や学校サポーター活動等で活躍しています。そんな人材を地域と大学が一緒になって育てていきたいと思えます。地域に愛される大学、地域のために貢献できる大学、地域とともに成長できる大学づくりを目指しております。

県内教育委員会地域教育連携推進協議会

平成26年12月17日(水)KKRホテル名古屋において、愛知県教育委員会学習教育部長を始めとした学外委員11名、本学から、連携担当理事始め関係者20名の合計31名が出席し、愛知県内教育委員会との地域教育連携推進協議会を開催しました。



白井連携担当理事から、より質の高い教員の養成を目指し、本学と教育委員会が互いのノウハウを出し合っているとの開会あいさつに続いて、教育関係機関を代表して、竹下愛知県教育委員会学習教育部長から、教員研修等への本学教員の派遣、学生の訪問科学実験及び、高校訪問授業等の活動に対する謝辞と併せて、一層の連携・協働をお願いしたいとのあいさつをいただきました。

会長に選出された白井連携担当理事が議長を務め、初めに愛知県総合教育センターの東野研修部長から平成26年度の同センターと本学との連携による研修事業の実施状況の報告がありました。この報告を受け、7月に協定を締結した名古屋市教育委員会から、名古屋市の教員研修においても、今後は、県総合教育センターの事例を参考にしながら、大学と連携を密にして組織的に実施したいとの要望が出されました。続いて、本学の各種地域連携事業についての説明を行い、連携事業のひとつである外国人児童生徒のための学習支援に関する県内の現状についての意見交換を行いました。

また、白井理事から、地域教育連携に関する当面の課題として、教員の学び直しやキャリアアップについて提議があり、次のとおり意見交換が行われました。主な意見の内容は、以下のとおりです。

- ◆ 教員の実践力・高度化や再教育について
- ◆ 教員研修における組織的な研修プログラムの開発
- ◆ 一般学級における発達障害児への対応
- ◆ 外国人児童生徒支援についての情報交換
- ◆ 大学改革や教員養成にふさわしい拠点大学のあり方
- ◆ 教職大学院のカリキュラムについて

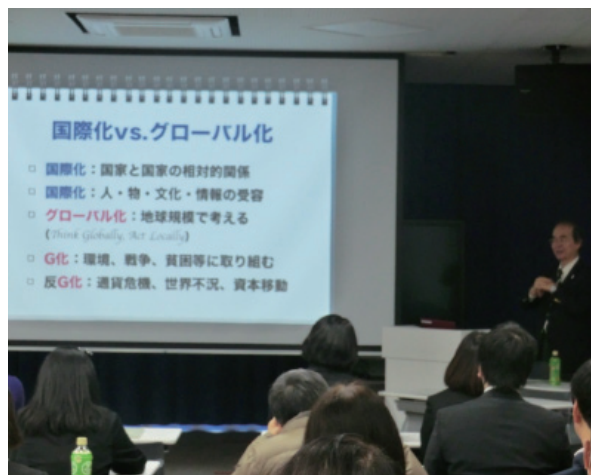


地域連携フォーラム

例年開催しております地域連携フォーラムは、平成26年度は、外国人児童生徒支援リソースルームの講演会とコラボして12月13日(土)に開催しました。

今年度から、小中学校における日本語指導が必要な子どもたちに対する日本語指導が「特別の教育課程」としておかれることになり、社会的な関心が高まっていることから、多くの方にお声掛けしようとした企画でした。

今年度のテーマは「文化の異なりへの向き合い方—これからの社会的ニーズを考えて—」です。



第一部では、福田真人先生(名古屋大学)をお招きして、「いつも異文化には発見がある...」というタイトルのもと、ご自身の留学、海外での研究活動、その期間の子育てについてお話しいただきました。ユニークな語り口でも楽しい時間でした。



第二部では、「外国にルーツを持つ方と関わって学んだこと」をテーマに、愛知教育大学で行っている小中学校へのボランティア学生派遣や土曜親子日本語教室に参加している学生さんから、活動を通じて学んだこと、気づいたことの発表がありました。会場からは、将来教壇に立とうとする本学の学生が、学校現場に出る前に多くの学びと気づきがあるということに対して温かなコメントをいただきました。参加した学生の励みになったと思います。

外国人児童生徒支援に関わる研修会

平成26年度外国人児童生徒支援に関わっている方・関心のある方を対象とした研修会を、11月19日(水)に開催しました。



第一部は、「異文化の中で暮らす子どもたち —体験から学ぶ適応支援」というテーマで京都教育大学の濱田麻里先生をはじめ、市瀬 智紀先生(宮城教育大学)、橋本ゆかり先生(横浜国立大学)、河野 俊之先生(同)が講師として、子どもたちがどのように環境から学んでいくのか、また、環境をどうとらえているのかを体験を通して知っていただくものでした。



第二部は、現在、外国人児童生徒支援リソースルームが取り組んでいる就学前児童への支援活動でご協力いただいている高木 都奈子先生(知立市役所子ども課 指導保育士)から、「環境に関わる保育」というテーマでご自身の体験を踏まえてご講演いただきました。

参加された方には、現職の教職員の方々、幼稚園、保育園の先生方、本学の学生、大学院生の姿も見え、今後の地域での外国人児童生徒支援について考えていただけた時間となったように思います。



土曜親子日本語教室

平成26年度も1月31日(土)に行った遠足で教室活動を無事に終えることができました。今年度の遠足は、名古屋市のリニア鉄道館、美浜町のえびせんべいの里です。親子で参加してくださっている学習者さん、成人の学習者さんと、教室運営に関わってくれている学生ボランティアの皆さんとの遠足です。バスでの移動でしたので、バスの中も学んだ日本語でおしゃべりが弾み、楽しい時間となりました。



平成27年度は、4月11日(土)に始まります。午後2時30分から午後4時まで。授業料は無料ですが、教材やイベント等に必要費用(300円)を初回にいただきます。レベルに合わせて大人は2クラス(予定)、子どもは就学前のクラスと小中学生のクラスになります。遊びながら日本語を学んだり、学校の宿題をボランティアの大学生と一緒に考えたりする時間です。



ボランティアの学生さんも募集しています!

詳しくは、愛知教育大学第二人文棟内にある外国人児童生徒支援リソースルームまで。



連携公開講座開設に係る打合せ

平成27年2月6日(金)、本学第三会議室において、連携協定を締結している7市(刈谷、知立、豊明、安城、碧南、高浜、みよし)の生涯学習担当者を招いて、地域連携センター関係者との連携公開講座開設に係る打合せを開催しました。

白井センター長から、開会あいさつと今年度の連携公開講座実施に対する謝辞が述べられた後、参加者の自己紹介が行われ、それに続いて「今年度の反省及び今後の運営」、「平成27年度の開設計画」及び「広報計画」についての意見交換を行いました。

各市からは、今年度の連携公開講座に係る広報の状況と講座受講者には、おおむね好評であった旨の結果報告をいただいたほか、今後の運営に関し、市民への広報のため、より詳細な講座内容に係る資料や講師のプロフィールの提供などの意見が出されました。

平成27年度の各市との連携公開講座は、今年度同様、全市で15講座を開設する予定です。各講座の円滑な実施に向けて、本打合せでの意見・要望を踏まえて、双方の担当者間で協力しながら進めていくことを確認しました。



地域連携会議

平成27年2月13日(金)に外国人児童生徒支援の活動に関して覚書を交わしている刈谷市、豊田市、知立市、豊明市の四市の教育委員会及び現場の先生方をお招きして、地域連携会議を開催しました。

今年度の活動報告と合わせ、今年度から始まった「特別の教育課程」について、外国人児童生徒支援リソースルームスタッフが県内13か所の教育委員会にお願いして情報をいただいた調査結果の報告を行いました。「特別の教育課程」1年目は、試行錯誤の1年だったということがよくわかる調査結果でした。本学の学生が将来学校現場で活躍できるよう、リソースルームでは様々な支援活動を行っております。



4者協定連絡会

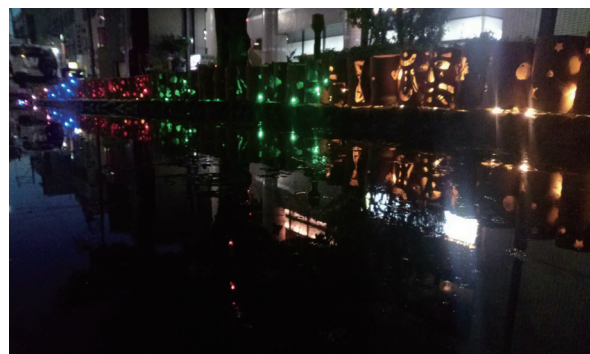
平成27年1月23日(金)に本学において、刈谷市、刈谷商工会議所、刈谷駅前商店街振興組合との4者協定連絡会を開催しました。

この会は、4者が刈谷市中心市街地の活性化に向けて、刈谷市中心市街地活性化のための連携・協力に関する協定を締結し、中心市街地の賑わいづくりの取組について話し合いを行っているものです。



刈谷市から経済環境部商工課の早川課長補佐をはじめ関係者4名、刈谷商工会議所から安達経営指導員、刈谷駅前商店街振興組合から鈴木理事長はじめ6名が出席、本学からは、白井地域連携センター長をはじめ同センター関係者8名が出席しました。

刈谷駅前商店街振興組合が主催する今年度の活動報告について、刈谷アートフェスティバルの企画運営を担当したNPO法人まちづくりかりやの担当者から、刈谷駅前商店街で開催されたカリフェスや夜のパブリックアート展の実施状況の説明があり、本学美術教育講座の永江教員及び関係学生の協力に対し、謝辞が述べられました。その後の意見交換では、刈谷駅前商店街振興組合から、「スペースAqua」の運営について、本学学生と協働してできることを検討していきたいとの要望がだされ、白井センター長から、今後は、教員個人での関わりではなく、組織として関係を構築していきたいことや学生たちや大学にとってもプラスになるような関係を作っていくことが大切であると応えました。刈谷市からは、大学の事情に即した形で参加いただき、その中で市としてできる範囲の支援ができればいいのではとの意見がありました。最後に、刈谷市中心市街地の活性化に向けて、4者が連携して支援していくことの必要性を確認しました。



(夜のパブリックアート展の様子)

刈谷駅前商店街と本学美術教育講座が連携し、刈谷アートフェスティバルでの素焼きのランプシェード展示が、平成26年11月23日(日)～12月25日(木)の期間開催されました。